

## 会 議 録

会 議 名	平成25年度第3回八王子市子ども・子育て支援審議会	
日 時	平成26年2月25日（火） 午後2時00分～3時30分	
場 所	八王子市役所 本庁舎 特別会議室	
出 席 者 氏 名	委 員	井上仁会長、高橋洋副会長、青木訓行委員、池永文乃委員、内野彰裕委員、大須賀美奈子委員、岡崎理香委員、栗本正男委員、小林千里委員、高橋哲男委員、立石晴美委員、チャーリー磯崎委員、山口茂委員 (会長、副会長、以下五十音順)
	説 明 者	
	事 務 局	峯尾常雄部長、小澤篤子課長、久間毅課長、志萱龍一郎課長、橋本盛重課長、新堀信晃課長、八木下輝一館長、秋元政人主査、川上寧子主査、稲田智範主査、小池靖信主査、國井益満主査、三宅智之主査、渡邊聡主査、永井太主査、中島功主査、遠藤由実子主査、後藤康次主任、村野晋太郎主事
欠 席 者 氏 名	赤尾浪広委員、石塚健市委員、鍛冶礼子委員、塩澤伸久委員、柗澤章次委員	
議 題	1 中核市移行後の審議会について 2 子ども・子育て支援事業の量の見込みについて 3 その他	
公開・非公開の別	公開	
非 公 開 理 由		
傍 聴 人 の 数	なし	
配 付 資 料 名	○第3回 八王子市子ども・子育て支援審議会 配付資料 ○別冊 地域子ども・子育て支援事業について 市町村子ども・子育て支援事業計画における「量の見込み」の算出等のための手引き	
会 議 の 内 容	別紙のとおり	
会 議 録 署 名 人	平成26年 4月21日 井 上 仁	

## 開会

【井上会長】本日は、八王子市子ども・子育て支援審議会第3回会議です。それでは次第に沿って進行します。議事（1）中核市移行後の審議会について、事務局より説明をお願いします。

### 議事（1）中核市移行後の審議会について

【事務局】（1、2 ページに基づいて説明。）中核市移行後は、児童福祉審議会、幼保連携型認定こども園に関する審議会が必置になります。そこで、現在の子ども・子育て支援審議会とそれらの審議会を統合して、同じく中核市移行後に必置となる社会福祉審議会の分科会として位置付けようと考えております。ご意見等あれば伺いたく思います。

【井上会長】児童福祉審議会を、社会福祉審議会の児童福祉専門分科会として位置付けることは可能ということですか。

【事務局】はい。

【井上会長】委員の皆様、ご意見等ありますか。ないようですので、次の議題に移ります。

### 議事（2）子ども・子育て支援事業の量の見込みについて

【事務局】（5～8 ページに基づいて説明。）これはニーズ調査の結果を集約し、ニーズ量を算出したものです。現在、ニーズ量と実績の比較、分析をしておりますので、その経過の報告をします。まず地域子育て支援拠点事業から説明します。

【事務局】（9～13 ページに基づいて説明。）13 ページの量の見込みはあくまで速報値です。ニーズ調査で算出した利用数と、実際のひろばの利用実績から算出した利用数に 3,000 程の乖離があります。これは、ニーズ調査では「毎月の利用回数」ということで質問したことが影響しているのかと思いますが、この部分については今後精査し、補正をかけていきます。

【井上会長】11 ページにある実績に基づく利用数について、市全体で見ると右肩上がりですが、施設ごとに見ると下がっている所も見受けられます。今後事業展開していくときに、質の担保をどのように図っていくのかということ、また、どのように考慮して推計値を出すかということを考えなければなりません。ここで出た数字の乖離はどのように扱うのでしょうか。

【事務局】在宅子育て家庭率との相関関係や、ひろばの利用率の経年変化に規則性が見ら

れないので難しいところですが、それらの事情も反映する考慮が必要とっております。  
具体的な方法については検討中です。

【井上会長】11 ページの右下にある全体の利用数の増加を考慮して補正をかけるのが有効かと思いますが、いかがですか。

【小澤子どものしあわせ課長】平成 24 年度に利用が増えているのは、駅前にゆめきつずを移転したことが大きいかと思います。

【井上会長】利用数は 20 万人から 23 万くらいが頭打ちという考えでよろしいですか。

【小澤子どものしあわせ課長】はい。

【井上会長】わかりました。推計値が出たら改めてご報告ください。それでは続いて子育て短期支援事業についてお願いします。

【事務局】(14～15 ページに基づいて説明。)

【井上会長】トワイライトステイについて、平成 23 年度から平成 24 年度にかけての利用数の減り方が極端ですが、何か要因はあるのでしょうか。

【事務局】細かい分析は今後行っていきます。

【井上会長】何か要因があると思いますので、推計値を出すときに配慮してください。施設との関係含めて、需要には応えられているのでしょうか。

【事務局】574 のニーズ量に対して、登録は 247 人となっております。しかし利用数は施設によってばらつきがあり、市内の東南部は利用しにくい現状があるのかと思います。そのような部分のニーズの把握も含めて、計画的に進めていきたいと思います。

【井上会長】受け入れる定員と需要のミスマッチはありませんか。

【事務局】稼働率を見て検討していきます。平均すると 1 日あたり 1 人くらいの利用実績ですが、定員が埋まってしまう日もありますので、枠を増やすという考えもあろうかと思えます。

【井上会長】その考え方は推計値に影響を与える部分ですので、今後考え方を示してください。

【事務局】はい。

【小澤子どものしあわせ課長】お申し込みいただいても、手配がついたので大丈夫という方もいます。枠をいくつ用意しておけばいいのか考えるのは難しい部分です。

【井上会長】この事業はセーフティネットなので最大どこを見込むのは難しいですが、どのようにするかによって需要数の見方が変わってきますので、検討をよろしくお願いま

す。続いて養育支援訪問事業について説明をお願いします。

【事務局】(16～17 ページに基づいて説明。)

【井上会長】家庭訪問数は増えているということです。ご質問等ありますか。

【高橋(洋) 委員】私の地区だと、地域子ども家庭支援センター館の方にお世話になっておりますが、常時動けるのは3名の方々かと思います。家庭訪問回数が増えていることから分かりますが、現場から見ても子ども家庭支援センターの方は大変だと感じます。事例の緊急度も増えてくるので、まずは人員配置が大事かと思います。

【井上会長】地域子ども家庭支援センター館の職員のうち、正規職員は何名ですか。

【事務局】館を含め、地域子ども家庭支援センターには5名の職員がおり、うち3名が正規職員、2名が嘱託員です。南大沢については相談件数の増加に対応し、職員を7名に増やし、うち5名が正規職員です。クリエイトは計16名の職員がおります。

【井上会長】相談件数によって増配置は考えているということですね。

【事務局】傾向に応じて対応しております。

【井上会長】相談件数は右肩上がりなので、スキルを持った職員の増配置をしていかなければならないと思います。そういった面も含め需要数の予測は重要ですので、よろしくお願いします。

### 議事(3) その他

【井上会長】その他について事務局よりお願いします。

【新堀児童青少年課長】3月21日に子ども意見発表会を行います。これは、昨年度までの子どもミーティングの形を変えて、児童館が中心となって事業実施をしているものです。子どもたちが企画委員として5月から活動を開始し、アンケート内容の検討、児童館や学童、学校等でのアンケート調査、集約を行ってまいりました。その総括として、3月21日に市長・教育長に報告を行います。その際に井上会長にも来賓としてお越しいたごき、報告会のあとに子どもたちと意見交換をする場を設け、次のこども育成計画に対して、子どもたちの思いを伝える機会としたいと思います。

【事務局】24名の子ども企画委員が各児童館で活動を続けてまいりました。アンケートの内容から子どもたち自身で考え、4,776枚のアンケートを集めました。各児童館でも意見発表を行いましたので、それをパネルにして展示するとともに、市長・教育長に向けて直接報告を行います。その間の時間帯で井上会長と対談を行います。よろしくお願いします。

【井上会長】子どもの生の声を聞くというのは、審議会としても大事なことです。審議会として対談を行います。委員の皆様、よろしくお願いします。それでは、これで平成25年度第3回子ども・子育て支援審議会を終了します。